

## V134a SKA プロジェクトへの参加計画 6

小林秀行, 赤堀卓也, 河野裕介, 廣田朋也, 吉浦伸太郎, 小山友明, 寺家孝明, 砂田和良, 藏原昂平, 本間希樹 (国立天文台) 高橋慶太郎 (熊本大学)

本講演では、SKA 計画の進捗と日本の参加計画の検討の進捗状況について報告する。SKA 計画は、50 - 350MHz の SKA LOW をオーストラリアに 350MHz - 15.4GHz の SKA MID を南アフリカに建設する計画で、第 1 期の SKA 1 計画の建設が 2021 年 7 月から開始されており、インフラの建設、アンテナ、受信機、関連器、ソフトウェアの開発が参加メンバー国の分担のもと進められている。日本でも研究コミュニティ団体である日本 SKA 協会を中心に 10 年以上にわたる参加の検討が進められており、宇宙電波懇談会・VLBI 懇談会も参加をサポートしている。国立天文台では、2019 年から 3 か年 SKA1 検討グループとして日本の参加案について検討を進め、SKA 本部とも協議を進めてきた。それを元に 2021 年 10 月に 2022 年から 2028 年の建設期における参加プランに加えて、2033 年までの初期科学成果の創出に向けた活動計画を含むプロジェクトを国立天文台に提案した。これを踏まえて SKA 本部と MoU を締結し、AIV 活動への参加を開始しているほか、Scinence Regional Center (SRC) の SKA 全体での検討に参加し、日本、中国、オーストラリア、韓国が参加するアジア太平洋地域における SRC プロトタイプの開発・試験を開始している。日本国内では、初期科学性能の評価に参加するための計画の検討も開始した。これら SKA 計画の進捗状況および日本国内での準備活動の状況と今後の計画について述べる。